

検査証(?)と封蝋(シーリングワックス)の巻き

ネパールから、金剛杵・金剛鈴・摩尼車(Vajura/Dorje/Tibetan Bell/Mani Wheel)等を輸出する際、必ず検査(有料!)が行われ、国外への重要文化遺産(?)の流出を防いでるのですが、その際、封蝋(?)を押した**検査証(?)**が付けられます。(検品の際に取り外して捨ててしまいますがね…)



写真は詳細が分からないよう、加工してますが、検査証(?)の真ん中に**封蝋(?)**が押ししてあります。昔、お手紙が他人に読まれないよう(勝手に開封されたら分かるよう)、封筒の口を閉じた所に蝋燭を垂らし、指輪に付いてる刻印を押しつけてたそう。右の写真は、インド製のサンプルで封蝋用ワックスのスティックです。さて、封蝋と言えば刻印を押す指輪ですが、昔、どこぞの王様は各部族毎に使う指輪(刻印)を分けたのか、随分と沢山、持ってたみたいですナ。(要出典)

中国の夜郎自大の話もそうですが、大国ともなると他の民族との付き合いが必須なんですネェ。仲良しばかりじゃなく、時には戦争もする訳で、自分たちの崇める神は、他の民族にとっての悪魔。逆も又、真なり。(インドの神様がスリランカでは悪魔呼ばわり…)崇める神様は元より、その民族自体を悪魔だの犬だの鳥だの、(好き放題?)言ってたようですが、単に崇めている神様やその乗り物だとされる動物と混同しただけかも知れません。

そういえば、昔は土木や農耕とか、大事な技術は各民族が特許のごとく、守り伝えていた模様。件の王様がお付き合いした中には、土木工事が得意な民族もいたようで、一夜で神殿を築いた逸話も。(豊臣秀吉の一夜城を思い出します)仏教の三千大千世界のようにオーバーに表現しただけかも、ですが。